



カボチャ（左：雌花、右：雄花）

撮 影 日：令和 2 年 8 月 1 9 日

撮影場所：秋田市 民家菜園

目次

生産現場情報： 営農管理システム『Z－G I S』で防除を効率化！	・・・ P 1～3
営農支援情報： 令和 3 年産米の作柄について	・・・ P 4～5
ご 紹 介： ①秋田米フォーラム2021開催～美味しい”あきたこまち”コンテスト表彰～	・・・ P 6
②「令和 3 年度 施肥防除合理化展示圃場試験成績検討会」を開催	・・・ P 7
③「令和 3 年度第 1 回 T A C 担当者研修会」を開催	・・・ P 8
④バターを無償提供しました！	・・・ P 8

営農管理システム『Z-GIS』で防除を効率化！

1. 地域無人ヘリコプター防除連絡協議会の活用事例

◆組織概要

湯沢地域無人ヘリコプター防除連絡協議会は、湯沢市、秋田県農業共済組合雄勝支所、こまち農業協同組合、湯沢主食集荷商業組合、土地改良区、防除区域内の各団体の代表で構成され、無人ヘリコプターによる水稻病虫害防除を推進し農業の安定成長に寄与することを目的に設立されました。今年度は、地区内の522ha（約8,300筆）もの水稻防除を実施しており、圃場の確認や管理等で営農管理システム「Z-GIS」を使用しています。

◆「Z-GIS」を導入したきっかけ

同協議会では「Z-GIS」を導入する以前も別のシステムを使い、対象圃場の確認や管理、散布作業等を行っていました。しかし、春先にパソコンが壊れてしまい、保存していたデータが使用できなくなったことから、代わりになるシステムを探していたところ、「Z-GIS」の存在を知りました。

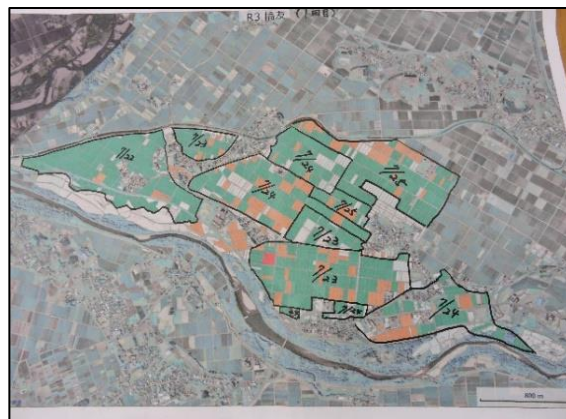
数あるシステムの中で、「Z-GIS」を選択する決め手となったのは「パソコン内部だけでなく、クラウド上にもデータを保存できること」でした。この機能により、データの破損を心配する必要が無く、離れた場所でもデータが共有できるため、効率の良い管理が可能になったとのことでした。また、管理したい項目を簡単に追加・記録できたり、白地図だけでなく航空写真を使用できることにも利便性を感じているとの評価もいただきました。更に、JAこまち担い手支援課の「Z-GIS」導入後の手厚いサポートがあり、初年度からスムーズに運用できています。



「Z-GIS」の操作画面

◆現場での活用方法

同協議会では「Z-GIS」の特徴である「圃場の見える化」と「クラウド上でのデータ共有」を対象圃場の確認や管理、散布作業に活用しています。「圃場の見える化」については、散布対象圃場や散布日、近隣の情報（障害物やドリフトの被害防止等）を記録し、状況に応じて色分けをして、地図上に表示することです。「クラウド上でのデータ共有」については、クラウド機能によって複数の端末上でデータを共有し、圃場管理の効率化を図っています。



作業の見える化を実現した圃場地図

◆今後に向けて

来年度の散布面積は、今年の面積から更に120haほど拡大した約640haになる予定です。冬期は拡大部分の圃場登録を行い、円滑な散布作業に向けた様々な準備を行っていくとのことでした。取材に協力いただいた、秋田県農業共済組合雄勝支所収入保険課奥山課長は「今後は更なる効率化を図るためにタブレットを活用してペーパーレス化を目指していこうと考えている。また、圃場管理だけでなく他の業務に活用できないか模索していきたい。」と語っていました。



写真左から：協議会事務員 由利聡子さん、JAこまち担い手支援課 伊藤善輝係長、農業共済組合雄勝支所 奥山昌輝課長、協議会事務員 松田佳那子さん

2. JAこまちにおける営農管理システム『Z-GIS』導入支援の取り組み

◆「Z-GIS」導入支援を始めたきっかけ

担い手への出向く活動の中で、圃場管理の必要性を感じたことをきっかけに、今年度よりJAとして「Z-GIS」を導入・習得し、管内生産者への周知・導入支援を行っています。支援活動にあたっては、JA担い手支援課伊藤係長を中心に、新たな経営体への導入支援や導入後のサポート訪問を実施しています。

◆「Z-GIS」の提案内容と活用について

○毎月担い手支援課で発行している『TAC通信』において、「Z-GIS」の紹介記事を掲載（令和2年7月号、令和3年10月号）：出向く活動を行う上で話のきっかけ作りになりました。

○JGAP認証：圃場と施設の位置確認のために「Z-GIS」の圃場地図を使用し、管理点に適合、記録にも活用できました。

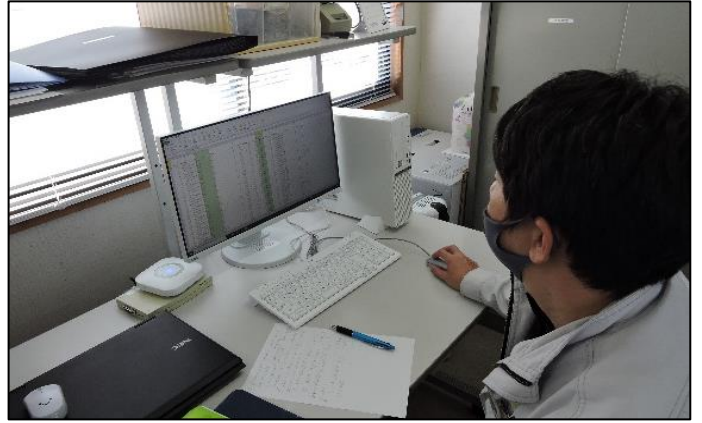
○水稻・大豆等の栽培圃場管理ツール：経営体の後継者や従業員が圃場を把握することが容易になった上、エクセルで作成していた栽培記録をそのまま活用できました。

○無人ヘリコプターの散布指示図：9000筆を超える圃場を登録し、「Z-GIS」の圃場地図を印刷し、現場で活用できました。

『TAC通信』令和3年10月号：
営農管理システム「Z-GIS」の紹介

◆今後の展望

担い手支援課 伊藤係長は「今後も「Z－GIS」を活用し、担い手の生産性向上や地域間・法人間・JA部門間の連携、事業継承に活用することで『効率的な営農管理』を提案していきたい。スマート農業が当たり前の時代が来るのもすぐそこなので、「ザルビオフィールドマネージャー」やリモートセンシング等を活用してスマート農業の活用も検討していきたい。」と語っていました。



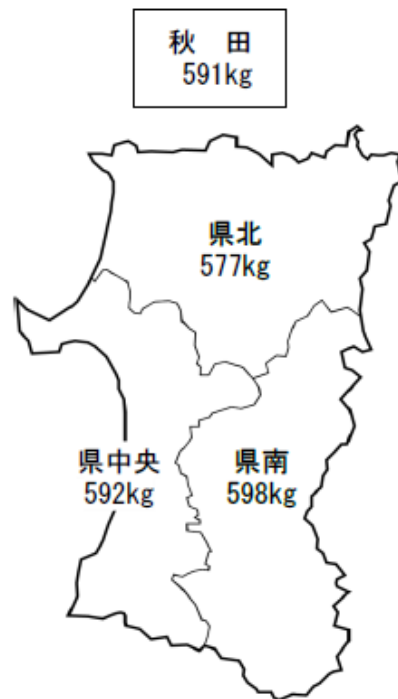
「Z－GIS」の導入支援を行うJAこまち 伊藤善輝係長

令和3年産米の作柄について

◆作柄概況

東北農政局は、12月8日に令和3年産水稻の作柄を、作況指数102の「やや良」（農家等が使用しているふるい目幅ベース）と発表しました。

秋田県の令和3年産の作付面積（青刈り面積を含む）は89,800haで、前年産に比べ500ha減少しました。このうち子実用作付面積は84,800haで、前年産に比べ2,800ha減少し、更にこのうち主食用作付面積は71,400haで、前年産に比べ3,900ha減少しました。水稻の10a当たりの収量は591kg（選別機のふるい目幅1.70mm）で、農家等が使用している選別機のふるい目幅（1.90mm）ベースの10a当たりの収量では555kgとなりました。作柄表示地帯別の10a当たり収量（選別機のふるい目幅1.90mm）は、県北が541kg（作況指数「103」）、中央が551kg（作況指数「102」）、県南が565kg（作況指数「102」）となりました。



東北農政局秋田県拠点公表資料参照



◆1等米比率

東北農政局秋田県拠点が公表した10月31日現在の検査数量は、水稻うるち玄米が286,659トン(前年同期比93.8%)で、1等米比率は90.5%となりました。2等以下に格付けされた主な理由は、着色粒（55.3%）、形質（27.0%）、被害粒（12.9%）によるものとなっています。

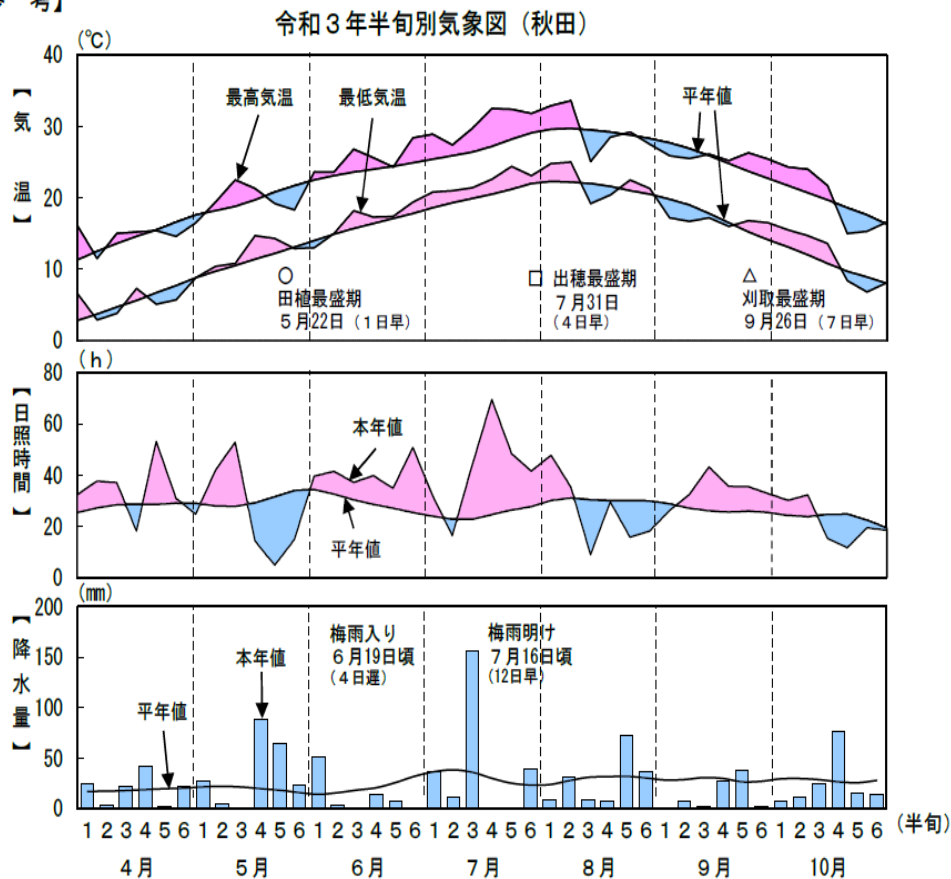
◆生育概況

4月の日平均気温は平年に比べて0.5℃高く、日照時間はかなり多かったものの、播種作業の盛期（50%）が4月22日と平年並みとなりました。5月は、日平均気温が平年と比べて0.2℃高く、日照時間は少なく、降水量は平年の171%と多かったが、全県の田植えの盛期（50%）は5月22日とほぼ平年並みとなりました。5月下旬には低気圧等の影響により低温が続き、一部地域で代枯れや活着不良が見られました。その後、6月中旬から8月上旬まで高温多照で経過し、東北農政局が発表した出穂期は、盛期（50%）が7月31日で平年より4日早くなりました。登熟期は、日平均気温がほぼ平年並みで、日照時間が平年比85%と低く推移したものの、稲刈りの盛期（50%）が9月26日と平年より5日早くなりました。

◆まとめ

今年の気象は、播種から稲刈りまで気象変動が非常に大きく、水・肥培管理が大変難しい年となりました。こうした厳しい天候にもかかわらず、生産者の弛まない努力が実り、今年も高品質・良食味米が収穫されました。気象変動の年が多い昨今、土づくりや深耕の確保、健苗育成、適期田植え、栽植密度の確保、水・肥培管理などの基本技術を励行し、高品質・良食味の秋田米生産につなげていただきたいと思います。

【参 考】



資料：気象庁ホームページ

注：1 「○」は田植え最盛期、「□」は出穂最盛期、「△」は刈取最盛期を示している。

2 田植え期、出穂期及び刈取期の最盛期は、県平均の期日である。

3 () 内の日数の遅速は、対平年差である。

秋田米フォーラム2021開催

～美味しい”あきたこまち”コンテスト表彰～

12月8日、秋田米のさらなる高品質・良食味米生産とブランド確立に向けた「秋田米フォーラム2021」を開催し、参加した生産者やJA、県関係者など約120人が生産・流通・販売における意識統一を図りました。

フォーラムでは、秋田県立大曲農業高校の生徒が「あきたこまち」に合うおにぎりの具を考案し、羽田空港や首都圏の京急ストア、大仙市の直売所「しゅしゅえっとまるしゅ」等で販売した取り組み紹介のほか、JA全農あきたによる「地球温暖化に対応した肥培管理」の講習、県農業試験場による「秋田県土壌の変遷と食味向上対策」と題した講演が行われました。



また、今年で9回目となる「美味しい”あきたこまち”コンテスト」の結果発表と表彰式も行われ、県内12JA及び1公社から推薦・出品された83点の中から12名が表彰されました。同コンテストで優秀な成績を収めた上位5位のお米は「ザ プレミアム ファイブ」として商品化され、県内では12月11日から、県外では12月中旬から数量限定で販売されています。

「美味しい”あきたこまち”コンテスト」

令和3年産米 「ザ プレミアム ファイブ」

令和3年産米「美味しい”あきたこまち”コンテスト」※で「玄米・白米の品質」、「食味値」、「食味官能評価」などについて、厳正な審査を経て受賞した上位5名のお米です。





最優秀賞【秋田県知事賞】
阿部 静夫さん
(JA秋田しんせい)



優秀賞
高橋 征志さん
(JAこまち)



優秀賞
佐藤 実寿さん
(JA秋田しんせい)



優秀賞
佐藤 一也さん
(JA秋田おぎ)



優秀賞
奈良 延寿さん
(JAかづの)

いよいよ 12月11日(土)より県内下記店舗で順次発売いたします(数量限定)

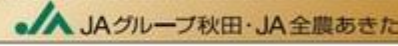
○タカヤナギ ○コープあきた ○ナイス ○イオン東北秋田中央店 ○イオンスーパーセンター ○西武秋田店 ほか

優秀賞受賞米「ザ プレミアム ファイブ」を是非ご賞味ください。

※JAグループ秋田主催 令和3年産米「美味しい”あきたこまち”コンテスト」の審査方法について
お米の審査は、玄米と白米における水分、白さ、整った形、タンパク質の割合等の品質評価と、専用の機器での食味値(おいしさ)の分析、更にはごはんを食しての食味官能評価を実施し、厳正なる最終審査を経て、最優秀賞1点、優秀賞4点、並びに優良賞7点が決定いたしました。

※一部お米がない店舗もございますのでご了承ください。

コンテスト優良賞受賞者：中村 敏明さん(JAかづの) 畠山 賢司さん(JAあきた北) 奥田 賢一さん(JA秋田たかのす) 農事総合法人しのめはらさん(JAあきた白神) 萩原 勝則さん(JAあきた白神) 伊藤 穰さん(JA秋田なまはげ) 藤原 敏行さん(JA秋田ふるさと)



「令和３年度 施肥防除合理化展示圃場試験成績検討会」を開催

ＪＡ全農あきたは１２月１日、「令和３年度施肥防除合理化展示圃場試験成績検討会」を開催しました。昭和５６年から続くこの検討会は、新しい肥料や農薬の普及のほか、適切な指導により過剰な施肥・防除を防ぎ、生産コストの削減を進めるうえで重要な検討会となっています。

４１回目を迎える今年は、県内ＪＡ、秋田県農業試験場、秋田県病害虫防除所、肥料農薬メーカーの担当者ら約１４０名が参加しました。



はじめに、令和３年水稻生育状況と作柄、令和３年度主要病害虫の発生状況について報告し、秋田県農業試験場の研究員や秋田県病害虫防除所の担当者からは各試験圃場での肥料試験・農薬試験の成績報告に対してのアドバイスをもらいました。ＪＡ全農あきたは、今後も展示圃試験の結果を通して、県内ＪＡ、関係機関と連携し現場目線で肥料・農薬の普及活動に努めてまいります。

「令和3年度第1回TAC担当者研修会」を開催

JA全農あきたは12月7日、TAC（地域農業の担い手に向くJA担当者）のスキルアップと活動強化を図るため「令和3年度第1回TAC研修担当者研修会」を開催し、県内JAから11名が参加しました。

研修会では、JA全農が開発した営農管理システム「Z-GIS」と営農計画策定支援システム「Z-BFM」の概要や操作説明のほか、本所スマート農業推進課と県内2JAによる活用事例を共有し、システムの実践的な利用方法を学びました。今後JA・担い手法人における効率的な圃場管理と農家所得最大化の実現に向けた、システムの普及拡大が期待されます。JA全農あきたは、引き続きTAC担当者のスキルアップと活動強化を支援してまいります。



バターを無償提供しました！

秋田県牛乳普及協会（事務局：JA全農あきた）は12月8日、秋田市の母子生活支援施設「秋田婦人ホーム」に乳製品（バター）1ケース（30個入り）を無償提供しました。



本協会は今年度、秋田県内の福祉関連施設12か所に合計16ケース（480個）の乳製品（バター）を無償提供しています。

秋田県牛乳普及協会の木元健史事務局長（写真：右）は「コロナ禍の長期化により牛乳・乳製品需要の低迷が続いていますが、今後も酪農乳業界が一体となって牛乳・乳製品の魅力を積極的にPRして消費拡大につなげていきたい」と力強く話しました。

牛乳・乳製品贈呈の取り組みは、昨年の医療機関・福祉施設等への牛乳の無償提供に続き、2度目となります。

Za・あぐりふおーむ

Zennoh-akita agriculture+reform

JA全農あきた営農情報誌「Za・あぐりふおーむ」
第23号 令和4年1月5日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号 018-864-2462